

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム  
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	G2601
代表機関名	筑波大学
主担当研究者所属部局	体育系
関連研究分野	スポーツ科学(A)
主担当研究者	征矢 英昭
事業名	スポーツ神経科学の国際研究拠点：認知機能を高める運動処方開発を目指して

**I これまでの事業実施により得られた成果**

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

<b>評 点 4</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた5名の派遣に対し、最終的に300日以上派遣した者が3名（助教3名＝626日、300日、373日）となった。</li> <li>・計画していた4名の招へいに対し、最終的に6名の招へいとなった。</li> <li>・派遣された若手研究者はそれぞれ一流誌への論文発表や国際学会発表を行っており、目標を達成しているので高く評価できる。</li> <li>・招へい者の滞在期間が1週間程度であり、我が国において本格的な研究を実施したというよりも、研究指導を行ったという印象が強いが、招へいされた研究者による連名論文が一流誌に発表されており、共同研究としての成果は得られている。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される効果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

<b>評 点 4</b>
<b>コメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業での研究成果は、高齢化社会における健康増進において非常に大きな知的基盤となる重要な知見であり、一流誌に多くの論文が掲載されている。</li> <li>・若手研究者の派遣先での研究成果(PNAS)や、連携機関からの指導を受けて日本側で行われた研究成果(Diabetologia、SciRep)などの著名な成果が報告されている。</li> </ul> <p>以上のことから、期待される効果は十分達成していると評価される。</p>

**II 今後の展望**

<b>評 点 4</b>
<b>コメント</b>

- ・ロックフェラー大学およびカハール研究所とは事業終了後も共同研究を継続しており、また、カリフォルニア大学アーバイン校とは共同研究の成果や将来性が認められ、M. Yassa 准教授の研究ユニットをスーパーグローバル大学創成支援事業の戦略プログラムとして筑波大学へ招致している。
- ・招へいにおける若手～中堅研究者の日本側での本格的な研究が実現しておらず、国際交流としては非対象な結果となっている。
- ・今後の筑波大学及び若手研究者が国際研究ネットワークの核やハブとなり活躍するような国際研究拠点形成のために、本事業で行った研究の延長で継続していくのではなく、志ある人材が集まってくるような発展のための具体的な方略、若手研究者のキャリアパスの見通しを期待する。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

### 総合的評価

評 点 4

#### コメント

- ・学術的に非常に高い成果をあげており、一流誌への論文掲載が 16 報あることは高い評価に値する。
- ・派遣においては十分な成果を上げている一方で、招へいについては著名研究者の短期来日に留まっており、在日若手研究者による本格的な研究実現に至っておらず、国際研究拠点形成という目標には一歩足りない部分が残る。しかし、本事業の成果は今後の拠点形成において大きな研究資産となるだろう。
- ・連携機関とともにスポーツ神経学会の設立を目指していることや、連携機関から筑波大学に招致した研究ユニットとの共同研究により、更なる若手研究者の育成とともに国際研究ネットワークの構築が期待される。

以上のことから、総合的に高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

#### 【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

#### 【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない